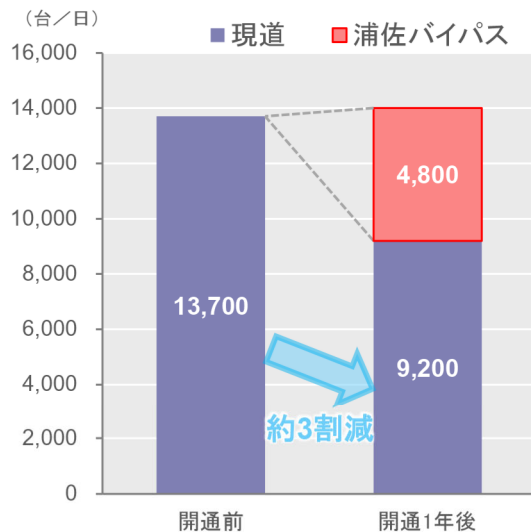


【浦佐バイパス・現道区間の交通量】

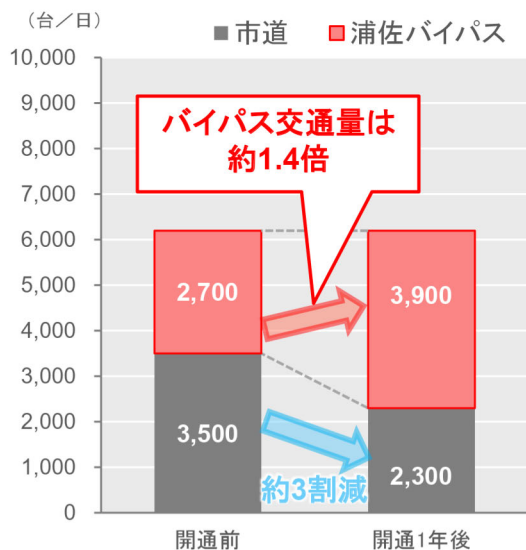
- ▶ 今回開通区間の交通量は約4,800台/日となり、現道交通量が約3割(約4,500台)減少しました。
- ▶ 既開通区間(B-B断面)は、並行する市道の交通量が約3割(約1,200台)減少し、バイパスの交通量が約1.4倍(約3,900台)増加しました。
- ▶ 今回の部分開通では、湯沢方面の主交通を現道としており、主に魚沼基幹病院や水の郷工業団地等のバイパス周辺施設を目的地とする交通は、バイパスへの転換が進みました。

【交通量の変化】

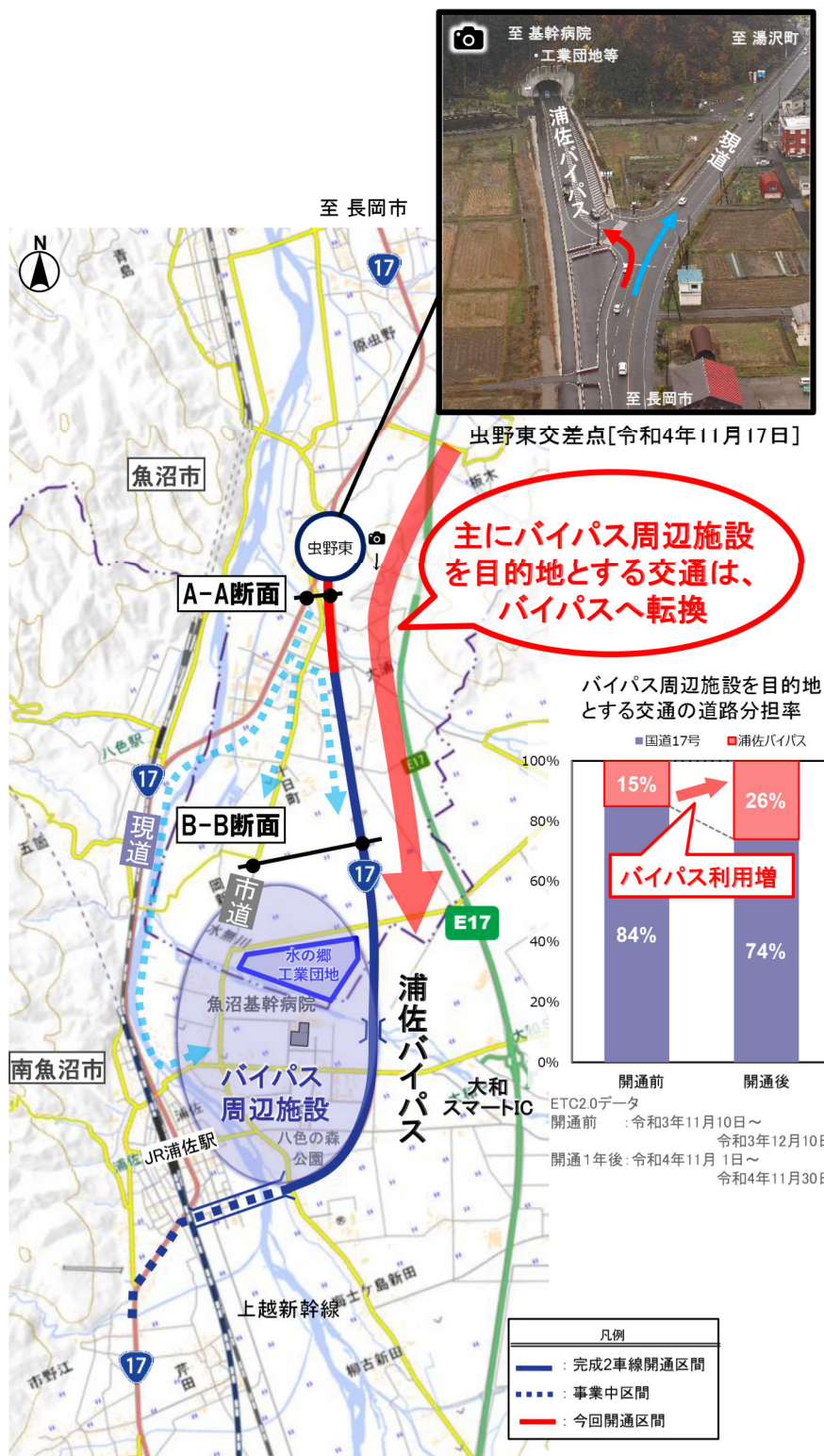
今回開通区間 (A-A断面)



既開通区間 (B-B断面)



交通量調査日 開通前 : 令和3年12月8日
開通1年後 : 令和4年12月7日 (いずれも平日)

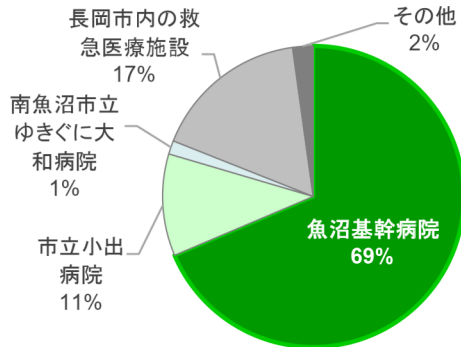


至 湯沢町

整備効果 救急医療施設への搬送環境改善

- ▶ 魚沼基幹病院(第三次救急医療機関)は魚沼地域の拠点的な医療を担っており、救急搬送や転院搬送の約7割が魚沼基幹病院に搬送されています。
- ▶ バイパスの部分開通により、長岡市方面からの搬送ルートが直線的になることで、走行時の揺れが減少するなど、搬送環境の改善に寄与しています。

転院搬送状況

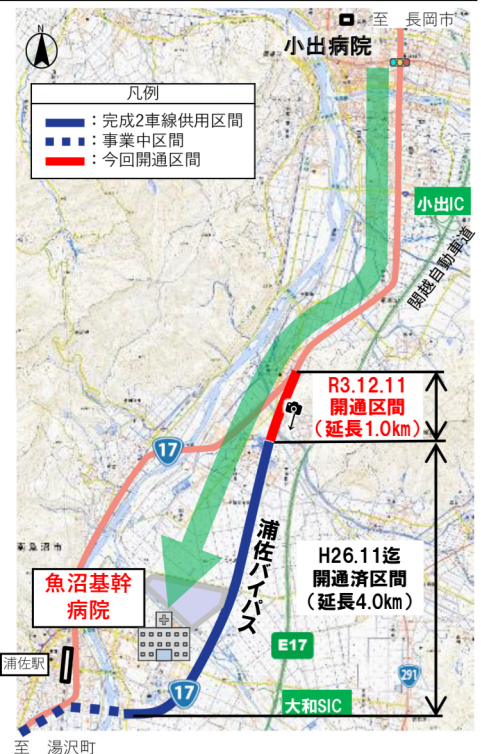


出典: 令和3年版 魚沼市消防年報

冬期道路状況



冬期の浦佐バイパス[令和4年12月19日]



救急搬送担う消防関係者の声

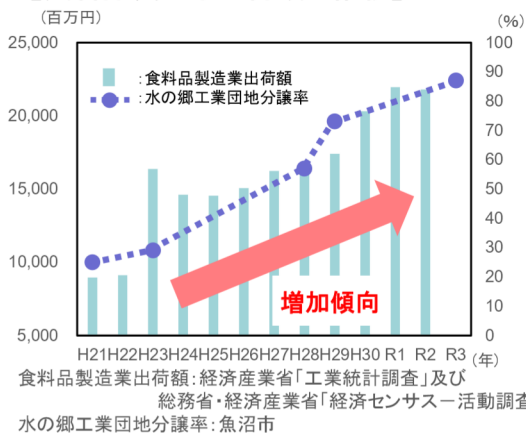
- ◆ 新たに開通した区間も含め、バイパスは幅員が広く、道路が直線になり、揺れも減ったため、**特に針を使うような処置を行う際は助かっています。**

※魚沼市消防本部ヒアリング結果 (R4. 10)

整備効果 地域の産業集積支援

- ▶ 「水の郷工業団地」は、豊富で良質な水資源、浦佐バイパス及び大和スマートICへの近接による交通利便性等を背景に、食品関係企業が集積しており、魚沼市の食料品製造業出荷額も増加傾向にあります。
- ▶ バイパスの部分開通により、工業団地から長岡市方面へのアクセス性が向上しており、地域産業の生産性向上に寄与しています。

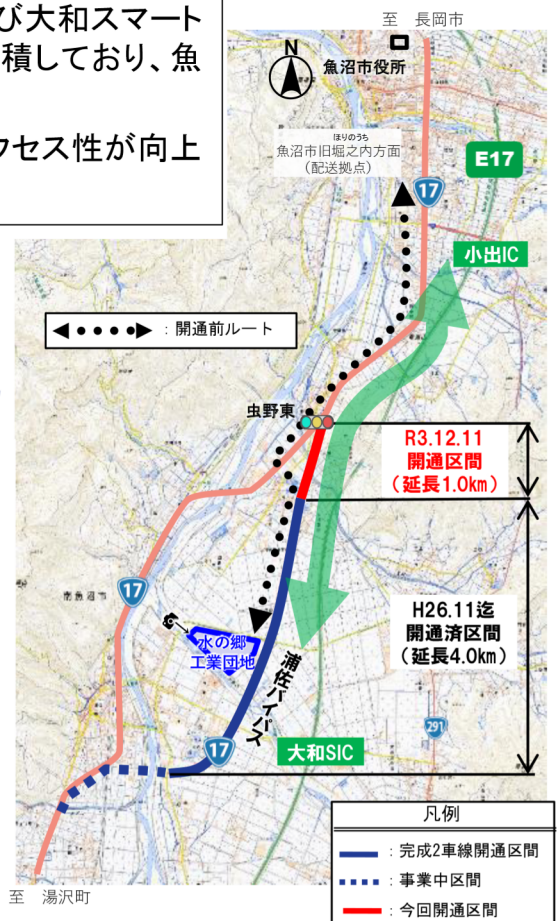
【食料品製造業出荷額の推移】



工業団地空撮



水の郷工業団地[令和4年6月30日]



工業団地立地企業の声

- ◆ 製品の集荷・出荷は、堀之内方面にある配送拠点が担っており、現在はバイパスを利用して配送しています。
- ◆ 今回の部分開通後は**現道からバイパスへ直接アクセスでき、大型トラックが走りやすくなった**と感じています。

※水の郷工業団地 企業ヒアリング結果 (R4. 10)